くさばな幼稚園の保育の特徴は

日本の教育者・児童心理学者で、日本の幼児教育の先駆けとなった東京女子高等師範学校附属幼稚園（現・お茶の水女子大学附属幼稚園）で園長を務めた、倉橋惣三先生の元で保育を学んだ、八坂冨子先生を初代園長として迎え、当園の歴史は始まりました。以来、倉橋惣三先生が説いた保育方針を大切に受け継いでいます。
自然豊かな環境の中で、子どもの興味や主体性を尊重し、その様子に合わせながら大人が「ワクワク」を遊びの中に仕掛け、子どもの感受性を豊かに刺激できるよう保育に努めています。

行事の特長

行事は、こどもの成長を表現したり、確かめたり出来る大切な機会のひとつです。
さまざまな行事があります。しかし、何よりもまず、こども自身が楽しみながらのものでなくてはならないと考えています。成長に合わせた、無理のない内容であるかどうか、一日のなかでの時間帯はどうか、こどもの立場に立ったものを心掛け、「見せる」ためだけのものとならないよう（保護者のためのものでなく、こどものため）、じゅうぶん練った内容となるよう努めています。

おにぎりさんぽ

春・秋それぞれの遠足前に必ず行う、おにぎり・水筒のみを持って目的地まで「歩く」ことを目的とした、当園独自の行事です。開園当時から現在に至るまでの、こどもたちの姿を比較した時に感じる変化の一つとして、長距離を歩く能力の低下が挙げられます。昔は園バスを使用せずとも、最寄りの福生駅まで往復約４キロ歩いて遠足に行くこともありましたが、今ではそうした行程はとても難しくなってしまいました。
生活様式の変化の中で自動車移動が増えたことにより、こども達が自らの足で「歩く」機会は大幅に減少し、目的地まで徒歩で移動することに「疲れる」と抵抗を示すこどももいます。
しかし、「歩く」ことは体力の基本であり、道々に咲く花の香に触れたり、吹く風の心地良さを感じたり、季節により変化する木々の色づきなどに気づいたり、行き交う人と挨拶をしたりと、車窓からとは違うさまざまな刺激が「歩く」ことで味わえ、こどもの脳の発達にもとても重要な影響を及ぼすとされています。
そのため、当園は同じ敷地内にある大行寺境内や、近隣へ散歩に出る機会も多く設けていますが、春・秋の遠足前に、普段の散歩よりも長い距離を「歩く」という経験を、先生や友達と一緒に楽しみながら行えるようにしています。